

大阪大学工業会海外交流助成金 「渡航報告」

〔教員の部〕

渡航報告書

大阪大学大学院工学研究科
環境・エネルギー工学専攻 環境設計情報学領域
准教授 福田 知弘

2011年4月27～29日に、オーストラリア・ニューカッスルで開催された The 16th International Conference on Computer-Aided Architectural Design Research in Asia (CAADRIA2011) Conference に参加した。関西空港からケアンズ、ゴールドコースト経由でニューカッスルまで20時間。機中泊1泊、現地5泊の渡航であった。

CAADRIA2011 Conference は、コンピュータ支援による建築・都市設計をテーマとした CAAD (Computer Aided Architectural Design) Conference のアジア・オセアニア地域を中心とした会議である。他の地域では、北米に ACADIA、南米に SIGRADI、欧州に ECAADE、中東に ASCAAD がある。参加者は、アジア・オセアニアのみならず、欧州、北南米、中東などから90名近く。日本からは大阪大学の他、東京大学、筑波大学、慶應義塾大学、京都工芸繊維大学、芝浦工業大学、AnS Studio が参加した。

本会議のテーマは「Circuit Bending, Breaking and Mending」。論文のテーマは、Generative and parametric design, Virtual and interactive environments, Ubiquitous computing, Design cognition, Computational design analysis, Computational research in design education など。投稿数、採択率は下記。

- ・ abstract 提出 : 182 (24 カ国)
- ・ うち, abstract review 通過 : 140
- ・ うち, full paper review 提出 : 89
- ・ うち, full paper review 通過 : 78
- ・ うち, 最終稿通過 : 72

本会議において、私は「A STUDY OF VARIATION OF NORMAL OF POLY-GONS CREATED BY POINT CLOUD DATA FOR ARCHITECTURAL RENOVATION FIELD」という研究題目で、15分間プレゼンテーションした。発表後の討議や Coffee break を通じて多くの研究者の方々とインタラクティブに議論することができた。

最後になりましたが、海外交流助成金を援助して頂きました大阪大学工業会に深く感謝致します。ありがとうございました。



写真 CAADRIA2011 Conference 風景

海外交流助成金「渡航報告」は、提出されたままを掲載しております。

海外渡航報告書

大阪大学大学院工学研究科 応用化学専攻 南方研究室
後期課程1年 長町 俊希

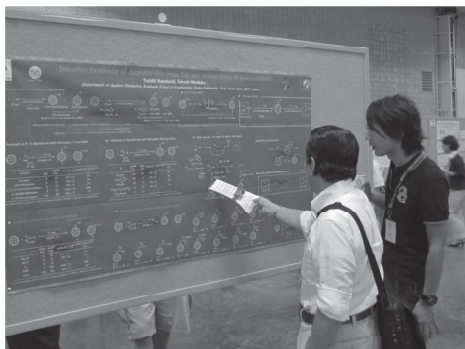
2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies

日程：2010年12月15日～20日

本学会は、アメリカ合衆国ハワイ州・ホノルル市で開催された。私はハワイコンベンションセンターにて、ポスター発表を行い、ポスターのタイトルは『Selective Synthesis of Azafulleroids from C₆₀ and Amides Using *N*-Iodosuccinimide』で、フラーレンの官能化法の開発についての発表をした。会場は、日本の学会ではあまり見られない程の広さで、会場内のすべてのポスター発表を見て回るだけでも非常に苦勞し、私自身は17日にポスター発表した。慣れない環境の中、私の研究内容に関して様々な視点からのご指摘をいただき、非常に良い刺激となった。ポスター発表終了後は、英語の能力をつけなければならないと思い、積極的に外国の発表者に質問したが、見事に撃沈され、英語力のなさを痛感したと同時に、さらに精進しなければと感じた。

様々な発表がある中、時間を見つけては、様々な場所を観光した。日本のこの時期では考えられない海水浴や、知らない人がいない程有名なアラモアナショッピングセンター、絶景を見下ろせるダイヤモンドヘッドなど、ありとあらゆる観光地を訪れた。ハワイの食事は非常にダイナミックで味も非常に美味しかった。滞在中、様々な料理を食べたが、一番印象に残っているのが、ふらりと訪れたバーでの現地の方との交流だった。非常に気さくに話しかけてくださり、一緒に踊ったりもした。学会発表だけでなく、観光もすることができ、非常に充実した5日間を過ごすことができた。

最後に、この度の学会参加にあたり、海外交流助成金を援助していただいた大阪大学工業会に深く謝意を表します。



ポスター発表



現地の方とのふれあい

海外渡航記

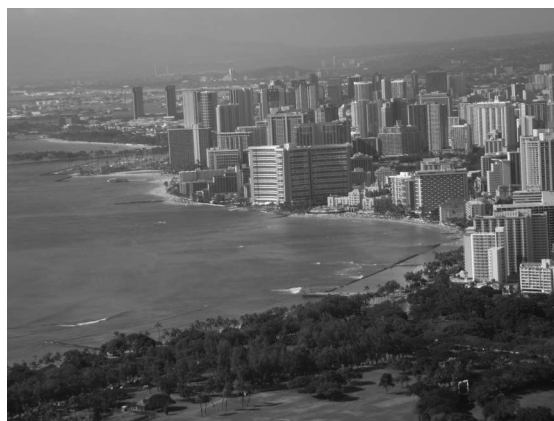
工学研究科応用化学専攻

D1 大村 聡

昨年末の12月15日から20日まで、2010環太平洋国際化学会議(PACIFICHEM 2010)が開催され、筆者もポスター発表という形で参加した。日本国内で行われた国際学会には幾度か参加したことはあったが、本学会の会場となるのはアメリカ・ハワイ。初の海外での発表である。寒さに震える日本を発ち、朝方のホノルルに降り立つと、コートに長袖では暑いくらいの気温が日本とは異なる国に来たことをすぐに実感させてくれた。

今回筆者が参加することとなった環太平洋国際化学会議は、環太平洋と銘打ってはいるが、実際は太平洋に面する国々のみならず、ドイツやフランス、エジプトなど、世界中からの参加者が大勢集まっている。そういった意味でも、本学会は全世界の化学者にとっての一大イベントであり、あらゆる化学分野の発表がワイキキビーチに面したホテルをはじめとする複数の会場で行われていた。発表言語はもちろん英語。残念ながら、筆者の英語力では話している内容の半分ほどしか聞き取れなかった。しかし、化学は化学式や構造式を見ればほとんど理解できる。言い換えると、こちらの熱意を伝えることができれば、例えブロークンイングリッシュであつても筆者の取り組んでいる研究の面白さを伝えることができる…はず。そう自分に言い聞かせるようにして、自身の発表に臨んだ。幸運にもポスター賞選考のファイナリストに残ることができたため、気合いは十分。こちらの緊張を相手に悟られないようにしながら、発表を聴きに来てくれる人を待った。残念ながらポスター賞は逃してしまったが、想像以上に多くの方が足を運んで下さったので、英語で自分の研究を発表する機会を数多く得ることができた。

また、学会のためとはいえはるばる訪れたハワイ。会場をハシゴして自身の興味のある講演を聴く合間を縫ってダイヤモンドヘッドまで足を伸ばした。ダイヤモンドヘッド山頂までの登山は気分転換にちょうどいい運動となり、頂上に設けられた展望台からの眺めは大変美しく、自身のまだ見ぬ世界の大きさを感じさせてくれた。そういった意味においても、今回の海外渡航は非常に有意義なものであった。



(写真：左) 本学会の会場の一つで、筆者も発表を行ったハワイコンベンションセンターのエントランス。(写真：右) ホノルルを一望できたダイヤモンドヘッドの山頂から。